

# 平成24年度 中間決算ハイライト



# 平成24年度 中間決算の概要（総括）

- 経常収益は31,665百万円（前年同期比+1,896百万円、2期連続の増収）
- 経常利益は 9,525百万円（前年同期比+3,425百万円、4期連続の増益）
- 中間純利益は、5,301百万円（前年同期比+1,853百万円、2期連続の増益）
- 全体としては、2期連続の増収増益。
- 単体自己資本比率は24年3月末比+0.52%の13.72%となりました。
- 金融再生法開示債権が総与信に占める割合（不良債権比率）は24年3月末比+0.10%の3.24%となりました。

## (1) 損益の概要

【単体】

（単位：百万円）

	23年度中間	24年度中間	増減額	増減率
経常収益	29,769	31,665	1,896	6.3%
経常利益	6,100	9,525	3,425	56.1%
中間純利益	3,448	5,301	1,853	53.7%
コア業務純益	9,279	8,688	△ 591	△ 6.3%

【連結】

（単位：百万円）

	23年度中間	24年度中間	増減額	増減率
経常収益	35,608	37,238	1,630	4.5%
経常利益	6,770	10,673	3,903	57.6%
中間純利益	3,570	5,629	2,059	57.6%

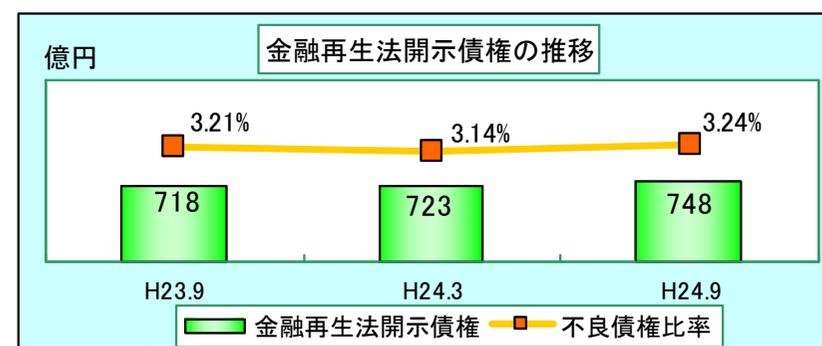
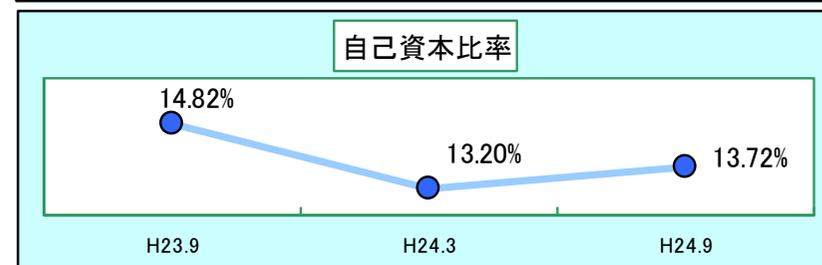
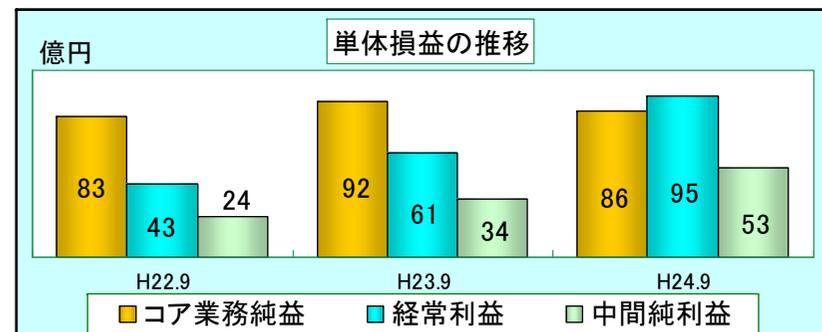
## (2) 自己資本比率【単体】

	23.9末	24.3末	24.9末	24.3末比
単体自己資本比率	14.82%	13.20%	13.72%	0.52%
(Tier1比率)	(12.71%)	(12.25%)	(12.78%)	(0.53%)

## (3) 金融再生法開示債権【単体】

（単位：百万円）

	23.9末	24.3末	24.9末	24.3末比
金融再生法開示債権	71,876	72,365	74,883	2,518
(不良債権比率)	(3.21%)	(3.14%)	(3.24%)	(0.10%)



# 平成24年度 中間決算の概要（単体）

• 業務粗利益（除く債券関係損益）	23,792百万円	（前年同期比 △ 731百万円）
• 経費	15,103百万円	（前年同期比 △ 140百万円）
• コア業務純益	8,688百万円	（前年同期比 △ 591百万円）
• 経常利益	9,525百万円	（前年同期比 +3,425百万円）
• 中間純利益	5,301百万円	（前年同期比 +1,853百万円）

（百万円）

		23年度中間	24年度中間	増 減
業務粗利益		25,254	27,398	2,144
（除く債券関係損益）		(24,523)	(23,792)	(△ 731)
資金利益		21,380	20,750	△ 630
役務取引等利益		2,949	2,881	△ 68
その他業務利益		924	3,766	2,842
うち債券関係損益		731	3,606	2,875
経費	(△)	15,243	15,103	△ 140
コア業務純益		9,279	8,688	△ 591
一般貸倒引当金繰入額 ①	(△)	748	△ 507	△ 1,255
業務純益		9,262	12,803	3,541
臨時損益		△ 3,161	△ 3,277	△ 116
うち株式関係損益		△ 977	△ 1,716	△ 739
うち不良債権処理額 ②	(△)	2,482	1,696	△ 786
うち償却債権取立益 ③		514	421	△ 93
経常利益		6,100	9,525	3,425
特別損益		△ 81	△ 774	△ 693
中間純利益		3,448	5,301	1,853
実質不良債権処理額 ①+②-③		2,717	768	△ 1,949

[業務粗利益（除く債券関係損益） 前年同期比△731百万円]

- ・ 貸出金、有価証券等の資金運用利回りの低下により、資金利益が減少した為。

[経費 前年同期比△140百万円]

- ・ 人件費は生産性の向上に努めた結果減少。
- ・ 物件費はコストを見直し圧縮を図る一方、営業力強化を目指しタブレット端末を導入したこと等から、全体では前期並み。

[コア業務純益 前年同期比△591百万円]

- ・ 資金運用利回りの低下による資金利益の減少が主因。

[経常利益 前年同期比+3,425百万円]

- ・ 不良債権処理費用の減少に加え、債券関係損益が増加。

[有価証券関係損益 前年同期比+2,136百万円]

- ・ 債券関係損益 前年同期比+2,875百万円  
債券価格の上昇により一部債券を売却し、売却益を計上。
- ・ 株式関係損益 前年同期比△ 739百万円  
株式市場の低迷により償却費用が増加。

[実質不良債権処理額 前年同期比△1,949百万円]

- ・ 大口の破綻も無く、当初見込み（上期25億円）を下回る水準となった。

[特別損益 前年同期比△693百万円]

- ・ 本店移転等に伴う本店跡地の減損処理費用を計上。

[中間純利益 前年同期比+1,853百万円]

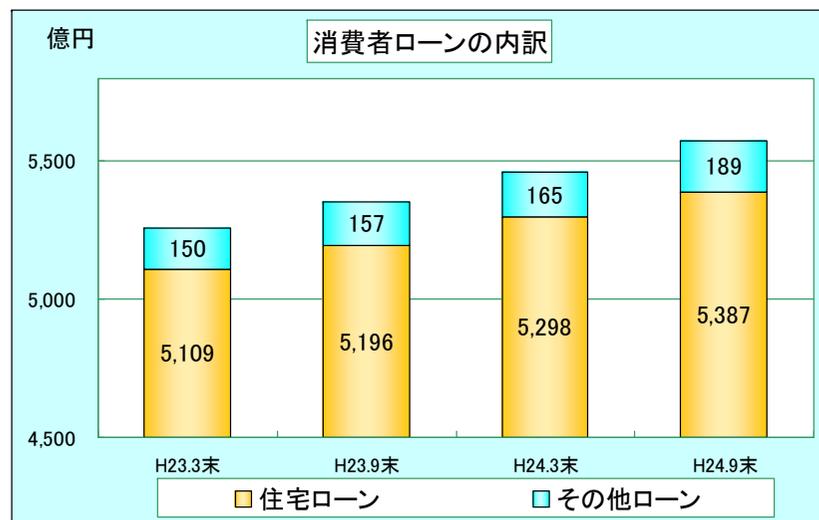
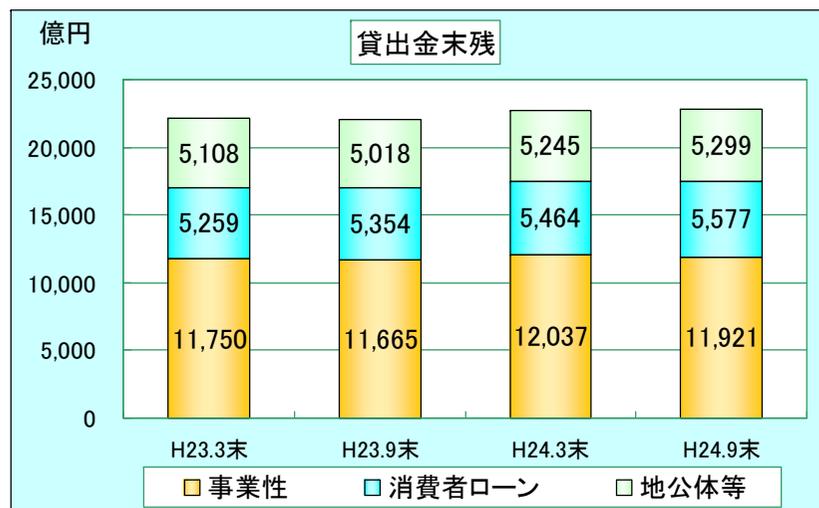
- ・ 不良債権処理費用の減少と債券関係損益の増加を主因として、中間純利益は増加。

# 貸出金

- 貸出金残高は、事業性貸出及び消費者ローンともに増加し、23年9月末比+759億円の2兆2,797億円となりました。
- 事業性貸出金は、23年9月末比+256億円の1兆1,921億円となりました。
- 消費者ローンは、住宅ローン及びその他ローン（カードローン、マイカーローン等）とともに順調に増加しております。

## ○貸出金の内訳

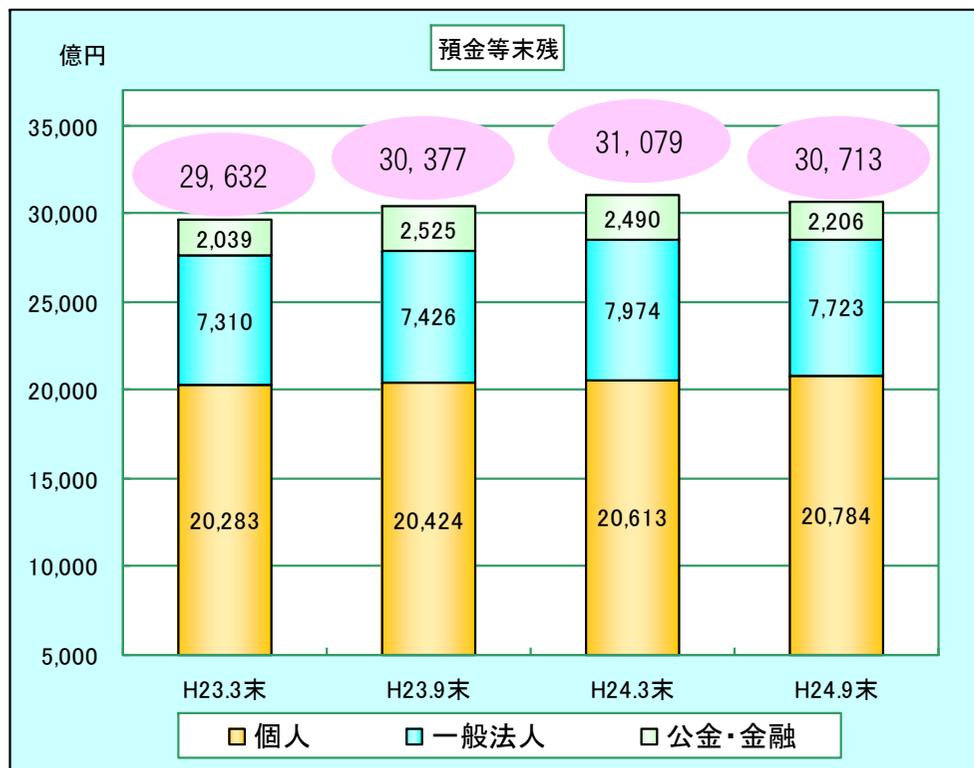
	23.3末	23.9末	24.3末	24.9末	増減 (23.9末比)
事業性貸出	11,750	11,665	12,037	11,921	256
消費者ローン	5,259	5,354	5,464	5,577	223
うち住宅ローン	5,109	5,196	5,298	5,387	191
うちその他ローン	150	157	165	189	32
地公体等	5,108	5,018	5,245	5,299	281
貸出金計	22,118	22,038	22,747	22,797	759



# 預金・預り資産

- 預金（含む譲渡性預金）は、個人預金が順調に推移し、23年9月末比336億円増加の3兆713億円となりました。
- 個人預り資産では、市況の冷え込みにより投資信託は減少した一方、保険窓販は元本保証型商品へのニーズも強く順調に推移し、投資信託・保険全体の販売実績では23年9月期とほぼ同水準となっております。

○預金等末残

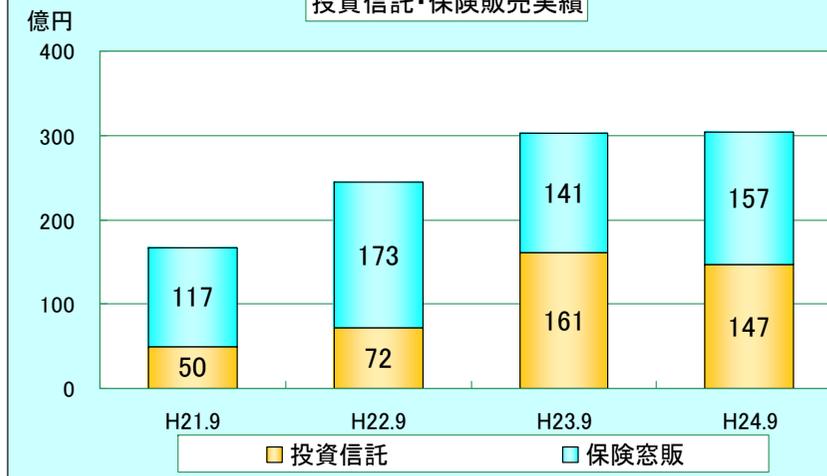


	23. 3末	23. 9末	24. 3末	24. 9末	増減 (23. 9末比)
個人	20,283	20,424	20,613	20,784	360
一般法人	7,310	7,426	7,974	7,723	297
公金・金融	2,039	2,525	2,490	2,206	△ 319
<b>合計</b>	<b>29,632</b>	<b>30,377</b>	<b>31,079</b>	<b>30,713</b>	<b>336</b>

個人預り資産残高

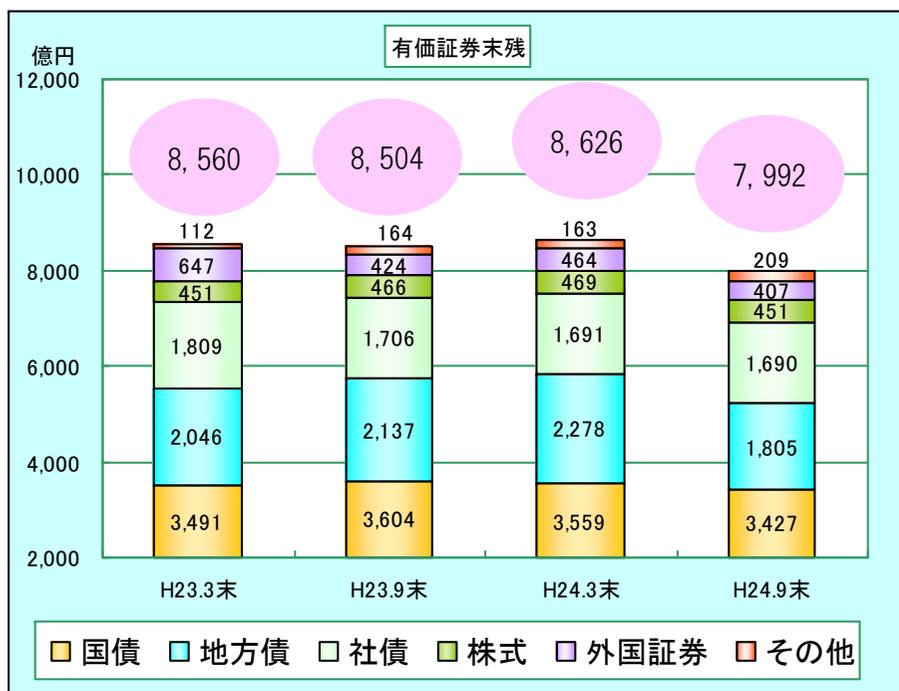


投資信託・保険販売実績



- 有価証券残高は、一部債券を売却した影響から減少し、期末残高は24年3月末比△634億円の7,992億円となりました。
- 有価証券の評価損益は株式を中心に減少した結果、全体では24年3月末比△12,275百万円の26,604百万円となりました。

○有価証券末残(取得原価ベース)

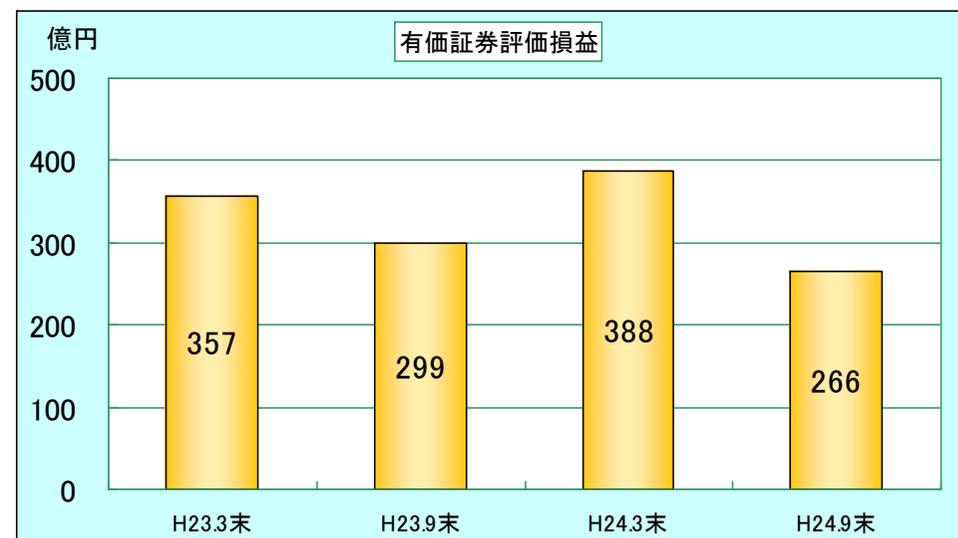


	23. 3末	23. 9末	24. 3末	24. 9末	増減 (24. 3末比)
国債	3,491	3,604	3,559	3,427	△ 132
地方債	2,046	2,137	2,278	1,805	△ 473
社債	1,809	1,706	1,691	1,690	△ 1
株式	451	466	469	451	△ 18
外国証券	647	424	464	407	△ 57
その他	112	164	163	209	46
<b>合計</b>	<b>8,560</b>	<b>8,504</b>	<b>8,626</b>	<b>7,992</b>	<b>△ 634</b>

○有価証券の評価損益

(百万円)

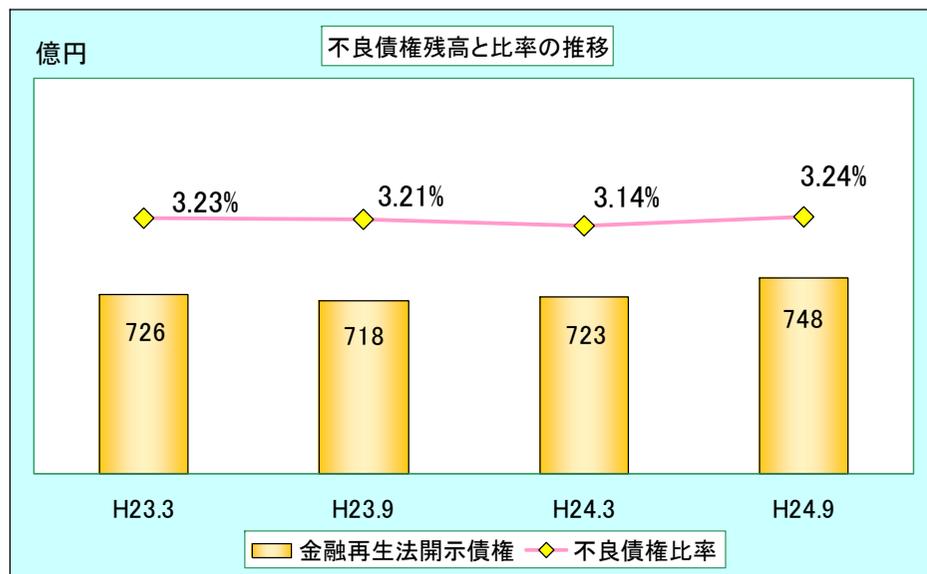
	23. 3末	23. 9末	24. 3末	24. 9末	増減 (24. 3末比)
評価損益合計	35,717	29,945	38,879	26,604	△ 12,275
株式	26,065	13,686	22,483	10,572	△ 11,911
債券	9,809	15,575	15,767	15,501	△ 266
その他	△157	683	628	530	△ 98



# 不良債権残高／自己資本比率の状況

- 不良債権比率は融資先の一部について格付の見直しを行った結果、24年3月比+0.10%の3.24%に上昇しました。
- 自己資本比率は、中間純利益が順調であったことから24年3月比+0.52%上昇し13.72%となりました。また、自己資本の質の高さを示すTier1比率は12.78%へ上昇しました。

## ○不良債権残高の状況

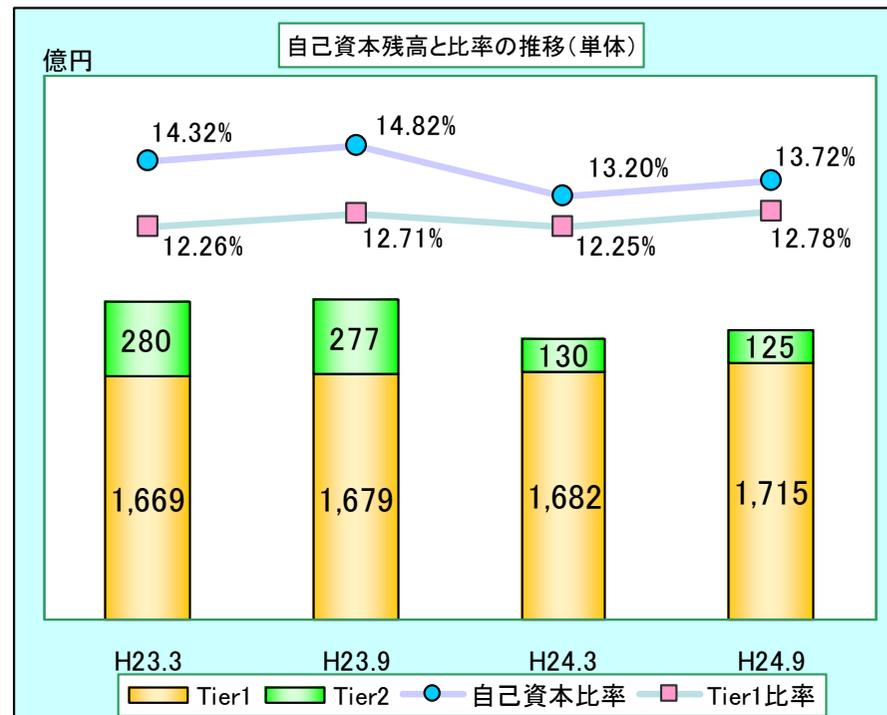


(百万円)

	23.3末	23.9末	24.3末	24.9末	増減 (24.3末比)
破産更正債権等※	17,914	18,881	16,897	16,507	△ 390
危険債権	53,650	48,311	49,320	51,869	2,549
要管理債権	1,113	4,683	6,147	6,506	359
計	72,677	71,876	72,365	74,883	2,518
不良債権比率	3.23%	3.21%	3.14%	3.24%	0.10%

※破産更正債権及びこれらに準ずる債権

## ○単体自己資本比率



	24年3月末	24年9月末	増減
単体自己資本比率	13.20%	13.72%	0.52%
(Tier1比率)	(12.25%)	(12.78%)	(0.53%)
連結自己資本比率	13.62%	14.19%	0.57%
(Tier1比率)	(12.70%)	(13.29%)	(0.59%)

# 平成25年3月期業績予想

- ・ 経常収益は58,000百万円（前期比△524百万円）を予想しております。
- ・ コア業務純益は17,000百万円（前期比△1,270百万円）を予想しております。
- ・ 経常利益は11,000百万円（前期比△2,450百万円）を予想しております。
- ・ 当期純利益は6,000百万円（前期比△83百万円）を予想しております。
- ・ なお、本年5月に発表した業績予想からは経常収益について変更しておりますが、コア業務純益、経常利益、当期純利益については変更ありません。

## ○平成25年3月期業績予想

【単体】  
（通期）

（百万円）

	24年3月期実績	25年3月期予想	前期比	（ご参考） 当初予想
経常収益	58,524	58,000	△ 524	55,000
経常利益	13,450	11,000	△ 2,450	11,000
当期純利益	6,083	6,000	△ 83	6,000
コア業務純益	18,270	17,000	△ 1,270	17,000

【連結】  
（通期）

	24年3月期実績	25年3月期予想	前期比	（ご参考） 当初予想
経常収益	70,160	68,000	△ 2,160	65,000
経常利益	14,865	12,200	△ 2,665	12,200
当期純利益	6,314	6,300	△ 14	6,300

### 1株当たり配当金

年間	うち期末
6円00銭	3円00銭

### 経常収益

- ・ 市場金利の低下により資金運用収益が減少するものの、債券の売却益を計上したことでほぼ前期並みになる見通し。
- ・ 5月発表業績予想から3,000百万円上方修正。

### コア業務純益

- ・ 市場金利の低下により資金利益が減少することから前期比減少を予想。
- ・ 5月発表業績予想から変更なし。

### 経常利益

- ・ コア業務純益の減少と不良債権処理費用の増加から前期比減少を予想。
- ・ 不良債権処理費用については当初見込みどおりの通期55億円を想定。
- ・ 債券売却益計上するも下期についても株式相場は不安定に推移することを見込む。
- ・ 結果、5月発表業績予想から変更なし。

### 当期純利益

- ・ 経常利益の水準から、ほぼ前期並みになる見込み。
- ・ 5月発表業績予想から変更なし。

### 配当

- ・ 配当は安定配当に加え、配当性向25%～30%を目処とする業績連動型配当の考え方にに基づき実施する。
- ・ 業績予想の水準より年間配当は安定配当相当額の6円（中間配当3円、期末配当3円）となる見込み